



七月号

発行所 財団法人全日本仏教会
東京都中央区築地
三ノノ(本願寺内)
電話(04)03123
発行人 栗本俊道
編集者 吉井浄仙
印刷所 栄昌堂

第四回中央講習会開催

―八月二、三、四日築地本願寺で―

全日仏では、毎年夏期をえらんで全国の各宗派、都府県仏教会、諸団体よりの推薦者を集めて、中央講習会を開催してきたが、今年は来る八月二日より四日までの三日間、東京築地本願寺において開催することに決定した。

今春行われた祝尊二千五百年祝典は、全国各宗派、地区仏教会諸団体の物心両面にわたる協力によつて成功をおさめ、国内的にも国際的にも大きな反響をよんだが、この成果を真に生かし、結束させるためには、どうしても自覚した仏者による持続的な教化のいとなみがなければならぬ。そして、このいとなみは、人々がそこに置かれていた現代の客観的な諸条件と精神的状況を正しくとらえ、そこに苦悩する人間の生きるべき道を仏陀の教法に聞くことをおいては考えられない。

全日仏では祝尊二千五百年を慶讃する仏恩報謝の念が、教化のいとなみとして具体的な姿をとり、全国津々浦々に至るまで活潑な教化活動が展開されるようになることを念願して今回の中央講習会開

催をきめたわけである。

講習会では、先づ増谷文雄講師(東京外語大教授、東大講師)による「仏教の現代的意義」で、仏教者の現代における責任を明らかに自覚することをめざし、友松圃諦講師(神田寺主管)には「青少年教育における仏教」の役割とその重要性についての説明をねがう。また現に真言宗豊山派に属し同時に日大工学部長として教鞭をとられる横地伊三郎講師(工学博士)は、その永年の研究と体験に基づいて「現代の科学と仏教」を講述される。近藤章久講師(精神分析学、医学博士)は、ますます膨張し、機械化されてゆく今日の社会には生きる「現代人の心理」について、佐木秋夫講師(民科会員、宗教研究家)には、参議院選挙等で異常な進出を示して注目さ

れる創価学会をはじめとする「新興宗教の現状と国民文化」について、それぞれ講述ねがうことになっている。更に斎藤栄三郎講師(商学博士、立正大教授)には、われわれがおかれている客観的な「国際情勢と日本の立場」について解説講演ねがう。

一昨年来、伊勢神宮、靖国神社等の取扱いをめぐって特別立法化の問題が提起され、また現行宗教法人法の改正の問題も一つの課題となつてきている。更に墓地問題の係争や、寺院の解放農地補償問題等も基礎的には寺院経営の問題として、またひいては教化活動とも関連するものとして各方面の注視を集めているが、これらの諸問題について、現に国会において仏教者の立場からその解決のため活躍しておられる大谷豊潤、大谷よし雄、小柳牧衛の各参議院議員に現状の報告、説明と見とおしを聞き、参加者との討議を進めること

参院全国区 全員当選

去る参議院選挙には、全国区候補として大谷豊雄、北島教真、赤松常子、山本杉の四氏が仏教界から立候補し、全日仏でも各氏を推薦したが、四氏そろつて上位当選され、各方面から祝福をうけている。

全日仏では去る六月二十日午後五時より、この四氏を中心に仏教関係現議員を招いて激励会を開いたが、四氏のほか草葉隆円、中野文門の両氏も出席され、全日仏理事、各種委員代表等凡そ三十名と共に交歓懇談のひとつきを過ぎた。大谷、赤松両氏の再選と北島、

を予定している。また、戦後新憲法に基づく婦人の地位の確立と向上は、日本女性の歴史の上で劃期的なことであつたが、最近民法親族法改正問題をめぐって再び婦人の地位についての論議が興つている。これらの問題とも関連しながら「仏教と婦人の問題」について、仏婦運動等をめぐって赤松常子、山本杉両参議院議員にとりあげていただくことになつている。

更にこの機会に「全一仏教運動について」参加者各意の討議と意見開陳をねがい、その推進について考究したい。以上、講師、講題について、企画側の意図と要望を紹介したが、加盟各宗派、地区仏教会、諸団体が本講習会をより意義あらしめるため、参加者推薦派遣等によつて積極的に協力されることを全日仏では切望している。

仏教徒会議準備始まる

才七回全日本仏教徒会議は、来る十月二十三日より二十五日まで二泊三日間に亘つて京都東山の知恩院で開催されることに決定しているが、年中最大の行事であり、毎年各界の注目を集めるこの会議を成果あらしめるべく、全仏事務総務局では、過去数次の経験に基づき準備検討をはじめしている。このため近る七月十八日には、事務局と関西事務局関係並に知恩院当局との才一回打合せが開かれ、具体的に準備が進められることになつている。

才四回中央講習会要項

- 一、日時 来る八月二(日曜)三(月曜)四(火曜)の三日間(午前九時半より午後五時まで)
- 一、会場 東京築地本願寺講堂(国電有楽町、地下鉄銀座、都電築地下車)
- 一、参加者 各宗派、都道府県市町村仏教会、青年会、婦人会、その他各団体推薦者(僧俗男女を問わず)
- 一、人員 二〇〇名(会場の都合により定員に達し次才縮切ります)
- 一、申込 来る七月廿五日までに参加費(二五〇円)を添え本会講習会係宛申込むこと、折返し受講証を送ります。(振替東京五九五四七番 全日本仏教会)
- 一、講師と講題 (順不同)
 - 一、仏教の現代的意義 東京外語大教授 東大講師 増谷 文 雄氏
 - 一、青少年教育と仏教 神田寺主管 友松圃 諦氏
 - 一、世界情勢と日本の立場 立正大学教授 商学博士 齊藤 栄三郎氏
 - 一、現代の科学と仏教 日本大学教授 工学博士 横地 伊三郎氏
 - 一、現代人の心理 新學博士 近藤 章 久氏
 - 一、新興宗教の現状 評論家 佐木 秋 夫氏
 - 一、宗教法人改正問題、墓地問題 農地補償問題について 参議院議員 大谷 豊潤氏 小柳 牧衛氏
 - 一、仏教と婦人の問題 一仏婦運動をめぐつて 参議院議員 赤松 常子氏 山本 杉氏
- 一、全一仏教運動の展開について

全日仏理事会開かる — 決算、人事異動等を承認 —

去る五月二十日午後一時より、京都東山知恩院の華頂会館において、全日仏理事會が開かれた。會議は先づ重永理事長の開會宣言に続いて挨拶が行われた後、協議に入り、次の如く報告、承認、決定が行われた。

(1) 人事に関する件

①曹洞宗内局の更迭に伴う、本會常務理事並びに理事の変更について左記の通りこれを承認した。

常務理事 佐々木 泰 翁師
理事 中 村 貞 元師

(2) 本會組織部長高橋忠雄師昭和卅四年五月廿五日付にて退職

同日付にて後任として吉井淨仙師就任の件につき報告しこれを了承した。

(3) 本會昭和卅三年度決算承認の件

別報(本紙二面所載) 決算書を朗読説明の後監査員より五月廿五日執行の監査の結果之を正當なるものと認むるとの報告あり全員異議なく承認した。

④チベット問題に関する件
チベット問題につき報告説明

し、本會の態度について之を了承した。

(5) 宗教法人法特別立法に関し、之を調査研究するため宗教法人法専門委員会を設けて研究を推進してゆくことを承認した。

(6) 解放農地の目的外使用について寺院農地に対しこれの取扱方につき調査研究を専門委員会に

政治にも深い関心を!!

「政治経済委員会開く」

四月・五月と積尊二千五百年祝典並にその事務整理等で忙殺されたため休会した政治・経済委員会の月例委員会が、去る六月十日午後二時より東京築地本願寺来賓室で開かれた。

地方選挙、参議院選挙等の終つたあとであったので、「最近の政局問題について」のテーマで自由討議が行われ、各委員より活潑な意見が述べられた。仏教界出身の立候補者が全員当選されたことが心から祝福されたが同時に、創価学会の選挙運動に見られる如き組織的な活動の立ち遅れについての分析と批判が行われた。

委員会では、現代が仏教界にとつても、又広く人間そのものにとつても一つの重大な危機として把

おいて促進するようにとの平林育高理事の要望を承認した。
当日出席理事左の通り

- 重永潜、佐々木泰翁、田丸道忍、官谷法含、太田淳昭、千々和宝天、竹村教智、平林育高、木全大孝、心山義繁、津田実雄、神田尚順、岩野真雄、長岡慶信、中山理々、小林大蔵、山本 杉、常光浩然、中村貞元、増永靈鳳、摩尼清之、

(内委任状十通)

なお各評議員に対しては、右理事會で承認された決算について直ちに文書を以て報告し、併せて、理事、常務理事選任について承認を求めた。

千葉県仏本会へ加盟

— 理事会を開く —

本通信既報の通り、千葉県仏教會は既に去る三月結成總會を開いて新発足し、その活動が期待を集めているが、去る五月二十日千葉市吾妻町光明寺において才一回理事會を開き、県仏運営の基本となる財政問題と今年度の事業方針、役員人事確定等について協議を行い、全日仏への加盟についても、これを正式に決定し、去る六月十日付を以て正式に加盟申込書が提出され、近く全日仏理事會の折に承認されることになつてゐる。

同県仏は、県下約二千近くの寺院の半数以上が既にその組織下にあり、県仏運営の活発化に伴つて県下全寺院が広く、力強く組織されることを期待されておられ、既に未組織地域に対する働きかけや、未加盟市郡仏教會に対する加盟懇願も進められてゐる。

決定をみた役員次の通り。

- 理事長 熊野寛夫(千葉市仏)
- 常務理事 勝田光有(野田市仏)
- 山田一光 (松戸市仏) 菅野義典(船橋市仏) 山崎義隆(木更津市仏) 安井了諄(銚子市仏) 野口堯尚(茂原市仏)

監 事 鈴木雷雄(千葉市仏)

大久保滋暢(君津郡仏)
なお理事は加盟各市郡仏教會の代表者全部、会長については目下交渉中。

県仏總會開かる

神奈川・遊行寺で

去る六月五日午後一時より、藤沢市遊行寺において神奈川県仏教

會定例總會が開催され、県下各支部より約百五十名におよぶ、多数の代表が参加して盛會を極めた。

總會は昭和三十三年度事業並に決算について報告が行われて、これを承認し、続いて立正大学教授久保田正文師の「現代生活と仏教」についての講演を聞き深い感銘を受けた。講演後、昭和三十四年度の事業計画、予算案が当局より提出され、協議が行われた。

なお当日は、總持寺、全仏代表並びに藤沢市長から祝辞が述べられ午後五時散會した。

教学教化委員会

去る六月十六日午後一時より、東京築地本願寺において、教学・教化委員会が開かれ、才四回中央講習会開催に伴う具体的な諸準備について協議が行われた。当日は事務総局の原案について各委員より活潑な意見が述べられた結果その大綱を決定し、具体的な講師依頼、会場設営等については事務総局に一任された。事務総局では、その後交渉を進めて別報の通り決定し、各方面へ協力を依頼した。

なお当日出席の委員は次の各氏
松本徳明、内山憲向、川田聖見、水島劍城、雲藤義道、権藤円立、伊藤定夫、賀来琢磨、長田恒雄、堤 敏郎

今秋までに実現か インドネシア戦犯遺骨送還

木村代表が努力

既報の通り戦後初めての日本僧侶としてインドネシア国へ渡つた本会派遣の木村義祐師は中部スマランにおけるウエサカ祭に出席した後、ジャカルタ、シンガポール、クアラ、ルンブルなど地点に在る旧日本軍人、軍属、一般邦人墓地の慰霊法要をなし、予定より一週間遅れて六月十六日空路無事帰国した。

木村代表は特に酷熱のジャカルタ市において目下懸案となつてゐる同市内及周辺に埋葬してある旧日本軍人、軍属、一般人の墓に参り前後二回に亘りささやかながら内地より持参せる線香を捧げて慰霊法要を行い各英霊の冥福を祈つたが、何回とも多数のインドネシア人及在留邦人が列席し花輪を捧げるなど積極的に協力を惜しまなかつたといふ。各墓地は仮埋葬の形で夫々四寸位の墓標を立てられ、こんもりと土がもつてある程度ながら、皆インドネシア人の心の願ひが整然となつてをり、戦争中インドネシア人が殺害された理由は実は日本人に依るのでなくオランダ人が日本人を迫害した結果成されたことであると云うインドネシア人が多く、また我々の宗教は表面回教のようであるが根本的な精神生命はみな仏教に根ざしてゐるとも云つており、日本人に対してまたこの遺骨送還についても非常な好感を持つて迎へられたようである。しかし一部には非常な敵意を日本人に対して持つてゐる

と云われるが、今回の木村代表の訪問によつて従来の友好親善が一步深められたことは事実である。ジャカルタ市にはすでに昨年二月に「戦争犠牲者遺骨発掘送還委員会」がサストロ・アトモジョヨ氏(元独立軍陸軍大佐)が委員長となりモハトハニシムラ氏(元独立軍陸軍少佐、西村正道氏のこと)で現在インドネシア国籍に入る)が副委員長となつてインドネシア政府及関係筋へ働きかけてをり木村代表は両氏に面会の上、遺家族の切実なる訴えをつたえると共に早急に日本送還を実現したい旨強く要望し両氏をはじめ関係者一同の賛意を得た。インドネシア人はこの遺骨はインドネシア人より「日本人へお返しする」と云う強い意向を持つてをり、民間相互の力によつてのみなされることを望ましいといわれており、ニシムラ氏はインドネシア人としても是非同遺骨は靖国神社へおさめてはしく、亦船もインドネシアのもので日本の港まで運ばせてほしいとも云つてゐるので、おそらく全日仏内に近々設置されるはずのインドネシア戦争犠牲者慰霊会(仮称)が実動を開始する段階になれば本運動の完遂は案外早期になされることも考えられる。また日本人の外に同時にインドネシア人の遺骨も発掘慰霊を行うところから、心あるインドネシア人の心情をうごかしたようである。全日仏では近く遺家族日伊協会などに連絡してこ

の慰霊会をもつ意向であり、遺家族の悲願にこたへるべく鋭意努力中である。

なおインドネシア訪問の木村義祐報告師帰国歓迎会は去月十九日東京築地本願寺に全日仏会長、理事長以下理事国際委員、遺家族など三十名が集り開かれ以上のような報告が涙ながらになされ、一日も早く遺家族の温かい胸に英霊が眠ることが出来るよう誓ひ合つた。

平和大行進に協力

原水宗懇開く

去る六月八日午後六時三十分より、日蓮宗宗務院において原水爆禁止宗教者懇話会幹事会が開かれ全日仏から吉井組織部長が出席した。

原宗懇は昨年二月成立以来、月例研究会の開催や、加盟団体相互の意見交換、経験の交流等を行つてきたが、近頃やその活動が停滞してゐたため、その再建方策についての検討を行うことが当日の幹事会の目ざすところであつた。

当日は現状を打破するため、先づ事務局態勢を整えること、幹事団体の強化の必要性が確認され、日蓮宗宗務院の立正平和運動本部に事務局をおくこととし、立正平和運動本部人類愛善会、及びキリスト教関係の一団体を以て事務局団体として運営の衝に当ることが決定された。なお来る八月の世界大会へ向けて、東京・新潟・鹿野大島より出発した平和大行進の一行に協力参加することが決定した。

全日仏ではこれにもつづき、各行進通過地区の加盟各府県仏教会に対し、協力方要請の依頼状を発送した。

海外邦人追悼盆会放送

NHKが主催で毎年行われてい

る「海外日系人物故者追悼盂蘭盆会法要」の実況放送は本年は曹洞宗大本山永平寺に於いて、七月十五日に行われることになり、全日仏国際局では直ちに北米、西部、南米、中南米、ハワイ等にある。曹洞宗、東西本願寺、日蓮宗、浄土宗、仏立宗、真言宗、野山等々計六十六ヶ所の寺院、教会あてに五十七年七月から五十九年五月までに死亡した日系人のリストを提出するよう依頼した。

因みに同実況放送は七月十五日下記の時間に放送される。中南米十二時四十分―十三時、北米及西部十四時四十分―十五時、ハワイ十六時四十分―十七時、南米十八時四十分―十九時

ブラジルから

ルンビニ美化運動へ浄財 釈尊の生誕地ネパールのルンビニ園を美化しようと云う運動はオキニ園を美化しようとする運動に基づき、提案者である佐藤哲英氏(龍谷大教授)が中心となつて着々と運動を推進しているが、今回ブラジルのサンパウロ市にある「在伯仏教各宗連合会」より協力金として浄財一万三千余円が全日仏へ送られて来たので早速京都にある同運動本部へ送つた。

シッキム国王

オーストラリア仏教会

チベット問題で返信

全日仏では過激チベット問題について声明書を内外に発表したが、これに対して今回左記の通りシッキム国王より返信が全日仏国際局へとどいた。

一九五九年五月廿一日
全日本仏教会 シッキム国王
国際局御中

親愛なる皆々様

私は全日本仏教会が今回のチベット問題に關して公表された本年四月二〇日付けの手紙と声明書を非常なる喜びを以つて拝受いたしました。私はその上、シッキムは仏教国であり、私共はまたチベットの現在置かれてゐる悲劇的地位を大いに憂慮いたすものであります。そして我々はダライ・ラマの身の上的安全を祈ると共に、偉大なる仏陀の教えが常にチベットに於いて光り輝くことを祈つて止まないものであります。我々の心からの協力はいかなる点に於てもチベットに於ける仏陀の御教えが保護され持続され、そして常に如何なる場所に於てもそうされることをここに念願いたすものであります。

なおオーストラリア仏教会理事長チャールズ・ナイト氏及びパリの仏教会よりも同趣旨の書簡が寄せられた。

〇〇あ と が き〇〇

▼いよいよ酷暑をむかへる。二千年五百年祝典の行事は一段落したが財政問題で事務局は連日会社訪問中。ごくろうさんです。▼講習会は新旧お盆の間をえらんで行われることになった。熱意ある方々多数の参加を期待してゐます。▼また原爆記念日がやつてくる。はかりしれない兵器の発達は、もはやその破壊力で広島、長崎の比ではなくなつてゐる。われわれ仏者は、兵器の発達の結果を殺戮と破壊ではなく、戦争絶滅の因とするよう、精進すべきではないだらうか。